



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO(国際連合食糧農業機関)日本事務所
2010年6月3日

LOJAPR10/14-No.163

プレスリリース

農産物の国際価格は低下

しかし、穀物以外の農産物の高価格により食料輸入代金は特に開発途上国にて依然高い

2010年6月3日、ローマ－年2回発行されるFAOの世界の食料需給見通し(Food Outlook)報告書の最新版で3日発表されたところによれば、主要な主食の国際価格は、2010年の最初の5ヶ月間下落している。

報告書は、FAOの食料価格指数は2010年5月には平均で164ポイントで、1月の174ポイントより下がっており、2008年春ピーク時の214に比べて著しく減少している、と指摘している。

穀物および砂糖の国際価格の下落が、この減少の主な要因と考えられる。砂糖の価格は、著しい生産増の見通しの下に年初のピーク時に比べて半分に下落した。

しかし、FAOの指摘によれば、現在世界の典型的な食料品バスケットの価格は依然2002-2004年に比べ約69%高いままとなっている。

報告書によれば、今年の主食における国際価格の急落の主因として、ほとんどの指標は、世界の供給が増加する傾向を示している。「2008-2009年の食料価格の急上昇により、多くの作物において作付けと生産に拍車がかかった結果、在庫が回復し、在庫対利用率が高まったが、この傾向は2010-2011年にも優勢であろう、と述べている。

2010-2011 年期における世界の穀物市場に関する最初の見通し

3日発表されたFood Outlookには、来る2010-2011年期の穀物貿易、在庫および利用に関する最初の予測が提供されている。

Food Outlookによれば、初期兆候として、2010年の世界の生産が2008年に達成された記録と同等になる見込みで、世界の穀物在庫が3期連続で増加することから、来期もまた安定するという傾向を示している。

重要なのは、生産の増加は輸出国に限られたことでなく、多くの輸入諸国でもまた、豊作が予想されていることである。

価格の低下が食料輸入代金の増加を覆い隠す

価格の低下にもかかわらず、世界の食料輸入額は 2010 年には 9,210 億ドルに達する勢いであり、これは 2009 年に比べて約 1,000 億ドル、または 11%増であるが、依然食料価格危機がピークを迎えた 2008 年に記録された一兆ドルよりは低い。

FAO の報告によれば、懸念される増加が見込まれるのは、穀物以外の農産物のより高い代金によるためであり、最高 17%、または、世界の食料輸入代金の約 3 分の 2 にあたる 6,500 億ドルにまで上昇しうる。

乳製品、植物油、砂糖は、輸入量の増加と価格上昇の組み合わせにより、輸入代金の上昇が見込まれる食料である。これらの輸入農産品への支出は 2008 年のレベルに近づく、または超えると予測される。

輸送コストの上昇もまた、食料輸入代金の上昇に拍車をかけている要因の一つである、と Food Outlook は指摘している。今年の輸送料金の変動は 2009 年に比べ約 75%高く推移している。

結果として、後発開発途上国(LDCs)および低所得食料不足国(LIFDCs)などの経済的に最も脆弱なグループの国際市場における食料購入価格は、昨年に比べ、それぞれ 10%と 14%上昇に向かっている。

砂糖と穀物価格は下落、油料作物、乳製品は安定、食肉と魚は上昇

砂糖の価格は、1 月に 30 年来の高平均である 1 トンあたり 583 ドルに達したが、著しい生産増の見込みのため、年初のピークから半分に急落した。

穀物の価格下落は、より穏やかで約 10%であるが、来期もまた豊作が期待されるため価格に更なる下方圧力がかかる可能性がある。

油料作物の価格は、これまでのところ需要が強含みで供給も穀物と比べるとやや逼迫していたため大幅な下落には反発していた。しかし、初期の兆候では、今後数ヶ月の間に高価格に対応した供給が現在の逼迫を緩和するため、油料種子の価格が下落する可能性が示されている。

一方、主に生産の減少と消費の増加により食肉部門の価格は急騰している。水産部門では、需要の一部回復の恩恵を受けているが、特に供給の限界により価格の上昇がみられる。大西洋のサケの市場は、チリの養殖部門における疾病の発生により供給に思わしくない展開があり、特に逼迫している。

主要乳製品輸出諸国における生乳生産の芳しくない見通しの一方、底堅い輸入需要が堅調な国際乳製品価格の基盤となっている、と報告書は付け加えて述べた。

英文 URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/42790/icode/>